

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プロジェクト演習Ⅱ		（ NGB12R ）
講義名（コード）	プロジェクト演習ⅡA		（ NGB12RA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	アントレプレナーシップの理解を深め、起業家マインドを養う
全体の内容と概要	新ビジネスやケーススタディを通して、アントレプレナーシップのスキルや学び、起業家の疑似体験をする
授業時間外の学修	日頃から町のお店や企業のニュースをチェック
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	アントレプレナーシップについて理解できる	「協力」「労働」「起業」、アントレプレナーシップのレベルを知る。
2	起業と理念を理解できる	起業の素晴らしさ、必要性を考え、起業を職業選択のひとつとして考えてみる
3	アントレプレナーシップに必要なスキルを理解できる	「マネジメント」「リーダーシップ」「責任能力」「ビジネスノウハウ」「退陣能力」の5つのスキルについて
4	起業家のストリートを研究する	アップルやアマゾンなどはいかにして成長してきたのか
5	新しいビジネスモデルの潮流を理解できる	GoogleやFacebookなど新時代のビジネス像について考察する
6	課題発見と解決方法を理解できる	問題解決の答えが一つではないことを知る
7	ビジネスモデルの策定ができる	起業に関してビジネスモデルを決める
8	ビジネスモデルの策定ができる	ワークショップ
9	競合・モデル企業の調査ができる	競合やモデル企業のリサーチをする
10	競合・モデル企業の調査ができる	ワークショップ
11	P/Lの仕組みを理解できる	お金の流れを把握する
12	事業計画・収支計画を理解する	ワークショップ
13	事業計画・収支計画を作成できる	ケーススタディ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング基礎Ⅱ		（NKT14A）
講義名（コード）	マーケティング基礎ⅡA		（NKT14AA）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、（株）経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	身近な業界や企業からマーケティングを考え、マーケティングメソッドを使えるようにする
全体の内容と概要	マーケティング的思考をしっかりと身に付けビジネス視野を広げる。 理解を深めるためにケーススタディやワークショップの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	後期の授業内容を理解できる	後期の授業テーマと流れの解説
2	マスマーケティングとダイレクトマーケティングの違いを理解できる	マスマーケティングとダイレクトマーケティングとは？ またその違いとは？
3	マスマーケティングとダイレクトマーケティングの違いを理解できる	ケーススタディ
4	ターゲティングを理解できる	STPマーケティングの概念を学ぶ
5	ニーズとウォンツを理解できる	ニーズとウォッチと何か。業界別のニーズとウォッチ
6	デジタルマーケティングを理解できる	デジタルマーケティングの種類とそのこの効用
7	デジタルマーケティングを理解できる	広がるSNSマーケティングの活用方法
8	デジタルマーケティングを理解できる	インフルエンサー・マーケティングの注意点
9	デジタルマーケティングを理解できる	ロケーション・インテリジェンス、生体認証など、マーケティングの活方法
10	デジタルマーケティングを理解できる	マーケティングとプライバシーの保護
11	商品開発を理解できる	マーケティングの4Pとは。商品開発に役立てる。
12	商品開発を理解できる	業種別のマーケティングの4Pを考察
13	商品開発を理解できる	マーケティングの4Pのケーススタディ
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	1年間のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	資料配布
参考文献・資料等	日々のニュースソース
備考	担当教員は企業コンサルの実務経験を活かし、身近な事例を用いてマーケティング基礎知識を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化理解Ⅱ		（ NKT13K ）
講義名（コード）	異文化理解ⅡD		（ NKT13KD ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	さまざまな国の文化・考え方を学んでお互いに教えあったり認め合うことができるようにする。
全体の内容と概要	各国ごとの冠婚葬祭・ジェスチャー・社会問題などのテーマについて意見交換や発表などをする。そうすることでお互いの文化の違いを教えあい、認め合うことができるようにする。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	発表が多いので事前準備をしっかり行う事が重要です。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	異文化を理解する目的を改めて知る	それぞれの学科の学習目標を提示し、異文化を理解することの必要性、異文化理解できていない場合どんなことがおきるかなども含めて学習する
2	異文化摩擦について理解できる	異文化摩擦の例を示したり、学生間で異文化摩擦の体験などもシェアしながら異文化摩擦とはということについて学習していく。
3	自分をふりかえることで、コミュニケーションがとりやすくなる方法を知る	グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、異文化対応力について自分を数値的に理解する。
4	非言語コミュニケーションやパラ言語について理解し、考察する。	アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する。
5	様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる	学生を国ごとのグループに分け、その国の催事について発表をするための準備をする
6	様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる	催事についての発表
7	様々な国の生活についてわかるようになる	様々な国の人々の生活をビデオでみる。（家、街中の様子、仕事、学校の様子、休日の過ごし方など）各自興味がある国について調べてまとめる。
8	様々な国の生活についてわかるようになる	クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる。
9	様々な国の生活についてわかるようになる	自国の生活について国別に分かれて発表する
10	世界の衣食住の歴史について知ることができる	日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオで見て、自分の国と比べてみる
11	世界の衣食住の歴史について知ることができる	自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる
12	世界の衣食住の歴史について知ることができる	衣食住発表準備
13	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
14	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
15	まとめと解説	今までの授業を通じてのまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	グローバルな時代を生きるための異文化理解入門・日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT13G ）
講義名（コード）	英語資格対策Ⅱ A		（ NKT13GA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検2級・準1級を取得する
全体の内容と概要	英検2級・準1級に必要な文法・語彙・熟語を習得し、それぞれの級の練習問題に取り組む。
授業時間外の学修	受験する級の語彙を増やし、問題集に取り組む
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	現在完了・過去完了を理解できる	現在完了形と過去完了形の違いを学習する/ 長文読解
2	受動態を理解できる	現在・過去・未来・助動詞がはいった受動態を使えるようにする/ 穴埋め問題
3	分詞の基本を理解できる	現在分詞・過去分詞を使った後置修飾を学習/ 長文読解
4	分詞構文を理解できる	分詞構文の構造を学び自分で文章を作ってみる/ 穴埋め問題
5	2級・準1級の熟語を覚える ①	熟語の練習問題に挑戦してみる/ 長文読解
6	2級・準1級の熟語を覚える ②	熟語の穴埋め問題に挑戦する/ 長文読解
7	作文の書き方を理解できる	作文の書き方を学習した後、過去問題集からトピックを選び実践練習
8	リスニング問題の注意点等を理解できる ①	友人との会話・ビジネス・接客等の場面での受け答え練習/ 長文読解
9	リスニング問題の注意点等を理解できる ②	電話・説明文・アナウンスで使われるフレーズ、表現を学ぶ/ 長文読解
10	熟語の復習テスト	熟語の穴埋めテストをして期末試験に備える/ 長文読解
11	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
12	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
13	テストの対策	熟語・作文・穴埋め・リスニングの復習をする
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検準1級過去6回全問題集（旺文社）・英検2級集中ゼミ（旺文社）
参考文献・資料等	英検2級過去6回全問題集/ 高校新演習 英文法・語法/ 英語標準問題1100
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT13G ）
講義名（コード）	英語資格対策Ⅱ B		（ NKT13GB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検3級以上に合格する。
全体の内容と概要	3級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	単語601～650 3級の過去問題に挑戦する	自分の現在の實力を知り、後期に力を入れるべき箇所を知る。
2	単語651～700 / 必要な語彙・熟語が理解できるようになる	語彙を増やすために派生語・接尾語を覚える。
3	単語701～750 / 必要な語彙・熟語が理解できるようになる	よく出る熟語・フレーズを覚える
4	単語751～800 比較級が理解できるようになる	比較級を理解し、関連問題を解く。
5	単語800～850 最上級が理解できるようになる	最上級を学び、関連問題を解く。
6	単語851～900 / 現在完了形が理解できるようになる	現在完了を理解し、関連問題を解く。
7	単語901～950 3級の過去問題に挑戦する	後期最初の授業時と比較し、自分の進み具合を知り勉強法を考える。
8	単語951～1000 / 前置詞・接続詞が理解できるようになる	紛らわしい前置詞・接続詞を的確に使えるようにする。
9	単語1001～1050 / listening・作文が書けるようになる	過去問のlisteningに挑戦し聴きとれない部分を重点的に繰り返し聞く。
10	単語1051～1100 / listening・作文が書けるようになる	listeningと作文の過去問題をやってみる。
11	単語1101～1150 / 語彙・熟語・フレーズが理解できるようになる	語彙や熟語が自分の物となっているか復習テストを受ける。
12	単語1151～1200 3級の過去問題に挑戦する	listening から筆記までの過去問題を時間内で解いてみる。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検3級過去6回全問題集、英検3級でる順パス単
参考文献・資料等	Evergreen、英検3級総合対策教本
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	観光ビジネス論Ⅱ		（ NGB12V ）
講義名（コード）	観光ビジネス論ⅡA		（ NGB12VA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本における観光産業を理解するとともに、主に長野県の観光事業の特性を理解し、事業構築アイデア醸成や観光ビジネス展開に向けた基礎知識を身につける。
全体の内容と概要	宿泊施設やレジャー施設などの観光事業におけるビジネスモデル（利益構造）を企業概要に基づき研究する。また地域に合わせた観光ビジネスについてアイデア醸成を行う。
授業時間外の学修	事業場見学や現地視察などのフィールドワークを進捗に合わせて計画する。
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で実施するため、ヒヤリングできる程度の日本語語学力が必要。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りとここ最近の観光業の動向について学ぶ。
2	宿泊業界の現状と課題について理解することができる	事例に基づいた宿泊業界の現状と国の方針について学ぶ。
3	宿泊業界の現状と課題について理解することができる	現状に基づいた課題の発見と今後の注力点をディスカッションし学ぶ。
4	観光地の現状と課題について理解することができる	事例に基づいた観光地の現状と国の方針について学ぶ。
5	観光地の現状と課題について理解することができる	現状に基づいた課題の発見と今後の注力点をディスカッションし学ぶ。
6	観光交通の現状と課題について理解することができる	事例に基づいた交通機関の現状と国の方針について学ぶ。
7	観光交通の現状と課題について理解することができる	現状に基づいた課題の発見と今後の注力点をディスカッションし学ぶ。
8	特産品の現状と課題について理解することができる	事例に基づいた特産品の現状と国の方針について学ぶ。
9	特産品の現状と課題について理解することができる	現状に基づいた課題の発見と今後の注力点をディスカッションし学ぶ。
10	観光法の現状と課題について理解することができる	事例に基づいた観光関連法律の現状と国の方針について学ぶ。
11	観光法の現状と課題について理解することができる	現状に基づいた課題の発見と今後の注力点をディスカッションし学ぶ。
12	インバウンドの現状と課題について理解することができる	事例に基づいたインバウンドの現状と国の方針について学ぶ。
13	海外旅行の現状と課題について理解することができる	事例に基づいた日本人向け海外旅行の現状と国の方針について学ぶ。
14	期末テスト	記述式テストの実施
15	テスト内容のフィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	特になし（独自資料の作成）
参考文献・資料等	地域観光パンフレット・企業ホームページ・観光関連機関発行の統計・観光白書 等
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経営学Ⅱ		（ NGB12P ）
講義名（コード）	経営学Ⅱ A		（ NGB12PA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、（株）経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	企業経営の仕組みや取り巻く環境を理解する
全体の内容と概要	ビジネス視野を広げるためにケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の重要性を理解できる	企業が成り立ち、成長するために必要な要素を4つに分けて考える
2	経営資源（ヒト）を理解できる	人材や組織にフォーカスを当て、企業活動を見つめてみる
3	経営資源（ヒト）を理解できる	ケーススタディ
4	経営資源（モノ）を理解できる	設備や商品にフォーカスを当て、企業活動を見つめてみる
5	経営資源（モノ）を理解できる	ケーススタディ
6	経営資源（カネ）を理解できる	お金の流れにフォーカスを当て、企業活動を見つめてみる
7	経営資源（カネ）を理解できる	損益計算書を使ってみる
8	経営資源（カネ）を理解できる	ケーススタディ
9	経営資源（情報）を理解できる	経営に必要な情報とは。情報を企業の経営に役立てる
10	経営資源（情報）を理解できる	情報ツールを使ってみる
11	経営資源（情報）を理解できる	ケーススタディ
12	学んだことをアウトプットできる	業種・業界別にヒト・モノ・カネ・情報の違いをまとめる
13	学んだことをアウトプットできる	〃
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	1年間のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員は経営管理の実務経験を活かし、会社活動の原理・組織・財務・戦略・管理などの経営基本知識をケーススタディを用いて指導を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	検定対策Ⅱ		（ NKT130 ）
講義名（コード）	検定対策Ⅱ A		（ NKT130A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期学習したWordの機能の活用を学習し資格を取得する
全体の内容と概要	日商PC検定BASICレベル受験対策を中心に学習していきます
授業時間外の学修	資格試験を受験する場合は、授業内容のほかにプログラムなどでくり返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ビジネス文書の基礎知識を理解	ビジネス文書とは・社内文書、社外文書の基本とちがい 資格試験概要紹介・自分の受験するレベルを決める
2	ビジネス文書作成の基本を理解	作成する文書の確認・文章の入力・編集・文字の配置、装飾・保存
3	表を活用したビジネス文書が作成できるようになる	表の作成・レイアウト変更・文字の配置・書式設定
4	図形を活用した文書作成ができるようになる	図形の作成・図形に文字を入力・スタイル変更
5	あいさつ文問題対策 基本となる日本語力をつける	模擬試験 問題 1 ショールーム開設のご案内・避難訓練実施のお知らせ
6	表問題対策 読み取りやすい表の作成を理解	模擬試験 問題 2 社内運動会開催のお知らせ・ワイン試飲会開催のご案内
7	オブジェクト問題対策 目的に合わせた図形の活用できる	模擬試験 問題 3 通信教育制度のご案内・新商品キャンペーンについて
8	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 (FOM出版問題集使用) 受験できる学生は随時検定受験 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	模擬試験プログラム 模擬 1 配置の設定・文字書式の変更, 設定・定型文の入力・段落番号の設定・保存 表の配置設定・図形の装飾
9		模擬試験プログラム 模擬 2 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存 表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定
10		
11		模擬試験プログラム 模擬 3 配置の設定・文字書式の変更, 設定・段落番号の設定・保存・インデント設定 表の編集・図形の装飾, 配置, 文字の入力
12		
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	日商 P C 検定BASIC公式テキスト・問題集 文書作成 (貸出)
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	資格試験対策として問題集・模擬試験プログラムを利用

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅡ	（ NKT14E ）	
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅡA	（ NKT14EA ）	
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネスで使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。又日本人同士のスピーディーな会話を聞き取ることができる。
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する1	読解：【対比】ほかのものと比べる1 聴解：実際の試験を理解する1 課題理解・ポイント理解
2	文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する2	読解：【対比】ほかのものと比べる2 聴解：実際の試験を理解する2 概要理解・即時応答
3	文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ1	読解：【言い換え】 聴解：実際の試験を理解する3 統合理解
4	文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ2	読解：【言い換え】 聴解：音声の特徴に慣れる
5	文章の仕組みを理解するために 何を何にたとえているかつかむ1	読解：【比喩】 聴解：即時応答のスキルを学ぶ
6	J L P T形式の問題を解くこと ができる。	JLPT模試 JLPT模試
7	J L P T形式の問題を解くこと ができる。	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明 できる。	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や 対象語を探すことができる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、 文の内容を説明できる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	文の前夜で先で、言い換えてい る言葉を見つけることができ る。	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむこ とができる。	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くこ とができる。	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N1 完全マスター聴解N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策Ⅱ		（ NKT14G ）
講義名（コード）	日本語資格対策ⅡA		（ NKT14GA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、コミュニケーション力を高めることができる
全体の内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 1	文法（～か、にもほどがある、ならまだしも、以前）、語彙（漢字読み第 7, 8, 9, 10 回）
2	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 2	文法（～べくして、が だけに）、チェック、語彙（文脈規定第 1, 2, 7, 8 回）
3	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 3	文法（～といわず といわず、たら たで、にたえない、ようものなら）、語彙（文脈規定第 9, 10, 言い換え類義第 7, 8 回）
4	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 4	文法（～ならいざしらず、ないものか、に越したことはない）、チェック、語彙（文脈規定第 11, 12 回、言い換え類義第 9, 10 回）
5	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 5	文法（～とはいえ、といったところだ、に ない、にかこつけて）、チェック、まとめ問題
6	送別会などで、お礼などの改まったスピーチなどができる 1	文法（～ところを、の至り、をもって、こととて、に堪えません）、語彙（文脈規定第 13, 14 回、用法第 1 回）
7	送別会などで、お礼などの改まったスピーチなどができる 2	文法（～たる、限りです）、チェック、まとめ問題、語彙（文脈規定第 15, 16 回、用法第 2 回）
8	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる 1	文法（～じゃあるまいし、んばかり、たらそれまでだ、ものを）、語彙（用法第 3, 4 回）
9	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる 2	文法（～ときたら、たところで、おうが、ろうが まいが）、語彙（用法第 5, 6 回）
10	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる 3	文法（～なら で、にすれば、までのことだ）、チェック、語彙（用法第 7, 8 回）
11	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる 1	文法（～といったらない、ろうにも ない、まくって）、語彙（用法第 9, 10 回）
12	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる 2	文法（～にしたところで、てみせます）、チェック、まとめ問題、語彙（N1 語彙総合問題）
13	小説などを読んで登場人物やその関係を理解することができる	文法（～つ つ、ともなく、べく、てからというもの）語彙（N1 総合問題）
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY！日本語能力試験N1, ドリル＆ドリルN1文字語彙
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2024年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	簿記Ⅱ		（ NGB12T ）
講義名（コード）	簿記Ⅱ A		（ NGB12TA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター（株）、東京精電（株） 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期に学習した簿記の基礎知識をふまえて、日商簿記初級・3級検定受験を目標に企業の取引のしくみ、記帳のしくみを学習していきます
全体の内容と概要	テキストに沿って1つ1つの会計処理方法を覚え、模擬問題を練習し検定対策をしていきます
授業時間外の学修	前期の内容のほかに新しい勘定科目や書式、計算問題が出てきます しっかり復習して覚えていきましょう
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも受験が出来ますので受験日を考えて学習してってください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	取引と記帳について理解する	証ひょうと帳簿とは何か
2	簿記で扱う現金預金を理解する	現金・当座預金・その他の預貯金
3	商品売買の処理について理解する	商品売買の処理① 三分法による売買取引（売掛金・買掛金） 仕入および売上の返品・クレジット売掛金
4	前払金・前受金・手形取引の処理ができる	商品売買の処理② 前払金・前受金 手形とは何か・手形の振出、支払・手形の受入、取立
5	電子記録債権・債務のしくみ 債権・債務の種類のちがいを知る	電子記録債権・債務について その他の債権債務① 貸付金と借入金、未収入金と未払金
6	債権と債務の種類のちがいを知り 処理方法を理解する	その他の債権と債務② 立替金・預り金・仮払金・仮受金
7	有形固定資産の処理ができる 減価償却の計算ができる	有形固定資産の取得・売却・減価償却の計算 減価償却費の貴重方法
8	純資産（資本）の仕訳を理解する	純資産（資本）の増加・減少、引出金の処理
9	税金のしくみを理解する	税金の種類・固定資産税・印紙税・所得税・消費税
10	伝票について理解し 集計と管理ができる	伝票（入金伝票・出金伝票・振替伝票） 一部現金取引・伝票の集計と管理
11	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第1回
12	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第2回
13	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第3回
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生のための簿記初級ワークブック
参考文献・資料等	他テキスト、問題集よりの抜粋プリント
備考	簿記初級サンプル問題 操作体験版なども使いパソコンで操作する試験に慣れていきます 担当教員はPCスキル及び簿記の実務経験を活かし、日商簿記ベーシック～3級レベルの授業を展開する